

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地															
日本電子専門学校	昭和51年9月10日	古賀 稔邦	〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地															
学校法人電子学園	昭和38年12月17日	多 忠貴	〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士														
工業	工業専門課程	Webデザイン科	平成19年文部科学大臣告示第20号	—														
学科の目的	クライアントの要求に応じた商用のWebサイトを制作できる実践的なWebクリエイター(Webディレクター、Webデザイナー、フロントエンジニア、Webプログラマー)の育成を目的としています。																	
認定年月日	平成26年3月31日																	
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技												
2年	1710時間	450時間	330時間	930時間	0時間	0時間												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数													
80人	50人	10人	3人	9人	12人													
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準は、90点以上を秀、80点以上90点未満を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、59点以下を不可とする。 成績評価は、試験、平常の成績、成果物等により行う。														
長期休み	■学年始め: 4月1日 ■夏季: 8月1日～9月10日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■春季: 3月21日～4月6日 ■学年末: 3月31日		卒業・進級条件	■卒業条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、卒業学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。 卒業条件に該当しない者は、原級留置とする。 ■進級条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、当該学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談、自宅訪問、保護者連携 電話・メール連絡		課外活動	■課外活動の種類 ・体育祭実行委員会 ・学園祭実行委員会 ・新宿警察主催ボランティア活動 ・各種競技大会、コンテスト参加 ■サークル活動: 有														
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) ミツエーリンクス、あたらす二十一等、トランスコスモス、キントロップ、他Web制作会社 ■就職指導内容 希望調査、履歴書作成指導、面接指導 ■卒業生数: 25人 ■就職希望者数: 25人 ■就職者数: 25人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 100% ■その他:		主な学修成果(資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報デザイン試験初級</td> <td>③</td> <td>25人</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>15人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 第12回若年者ものづくり競技大会: 敢闘賞 第一回専門学校HTML5アワード: グランプリ賞、アシアル賞 mashupawards2017: 企業賞 Device2Cloudコンテスト2017: 優勝			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	情報デザイン試験初級	③	25人	24人	色彩検定3級	③	20人	15人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数															
情報デザイン試験初級	③	25人	24人															
色彩検定3級	③	20人	15人															
中途退学の現状	■中途退学者: 1名 平成29年4月1日時点において、在学者46名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者45名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学習上の理由、健康上の理由、経済上の理由		■中退率: 2.2%	■中退防止・中退者支援のための取組 担任制、キャリアセンターサポート体制、新入生準備教育、学習目標設定・管理、個人面談、保護者連携、出席管理、学生相談、カウンセリング、自宅訪問														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・電子学園特別奨学生制度(本校専願者で、学業・人物共に優秀であり、就学に際して経済的事務を有する方を対象) ・成績特待生制度(本校専願者で、高等学校進学用調査書の評定平均が本校の基準を満たす方を対象) ・試験特待生制度(本校専願者の方が対象) ・資格特待生制度(本校専願者で、本校指定の資格を取得している方が対象) ・美術特待生制度(本校専願者で、本校指定の作品を提出できる方が対象) ・課外活動特待生(本校専願者で、高等学校から課外活動に対する推薦を受けられる方が対象) ・親族入学優遇制度(入学者の親族が、電子学園の在校生または卒業生である方が対象)																	
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構 平成30年3月31日 http://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation.html																	
当該学科のホームページURL	http://www.jec.ac.jp/course/mobile/aw/																	

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会は、卒業生の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを十分に把握、分析した上で、本校の専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設または授業内容・方法の改善・工夫等を行うなど、専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施するための検討課題を協議・検討することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育の管理部署(教育部、教務部)と各学科に対して中立的な位置付けとし、実践的な教育を行うために、経営や教育現場からの制約を受けない自由な検討が行えるものとする。

尚、教育課程の編成については、以下の過程に基づいて決定する。

- ① 学科教員により、今後の教育課程について検討し改善案を作成する。
- ② 教育課程編成委員会にて、学科からの改善案について各委員の専門的知見に基づく意見を伺う。
- ③ 教育課程編成委員会での意見を踏まえ、学科長及び教育部長を中心に最終案を作成し、校長の決済で決定する。
- ④ 次の教育課程編成委員会にて、最終決定した教育課程を各委員へ報告する。

上記の教育課程を決定する過程については、学校関係者評価委員会においても報告・評価の対象とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
満岡 秀一	OESF(Open Embedded Software Foundation)	2017/10/1～2020/3/31	①
久山 和宣	株式会社ベースメントファクトリープロダクション	2017/10/1～2020/3/31	③
古賀 稔邦	日本電子専門学校 校長	2017/10/1～2020/3/31	
船山 世界	日本電子専門学校 副校長	2017/10/1～2020/3/31	
杉浦 敦司	日本電子専門学校 教育部 部長	2017/10/1～2020/3/31	
佐々木 卓美	日本電子専門学校 教務部 部長	2017/10/1～2020/3/31	
高橋 陽介	日本電子専門学校 キャリアセンター センター長	2017/10/1～2020/3/31	
小山内 靖美	日本電子専門学校 Webデザイン科 学科長	2017/10/1～2020/3/31	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

委員会は、原則として学期の切り替え時期(9月)及び、年度末(3月)の年2回は、必ず開催する。また、業界動向の変化や学科の状況等により、必要性に応じて適宜開催する。

(開催日時(実績))

第1回 平成29年9月15日 14:00～16:00 開催

第2回 平成30年3月 2日 14:00～16:00 開催

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【議題1】

動画マーケティングについて。

【意見】

映像を活用したビジネスが拡大している中、動画マーケティング視点を視野に入れたコンテンツを授業の中に取り入れてみたらどうか。

【活用】

2年生「Webマーケティング」の授業で、Web動画マーケティングをテーマに2つの内容を実施。

- ・ YouTubeマーケティングの特徴を探る。
- ・ FacebookやTwitterなどのソーシャルメディアに見られるWeb動画を活用したマーケティングを調査する。

【議題2】

海外との学びの交流について。

【意見】

積極的にインターネット動画を活用しているベトナムやタイ、インドネシアなどでWebを学んでいる地元学生や企業と交流や連携を行えないか検討してみようか。

【活用】

卒業生を含めた留学生会を実施(9月29日)。韓国、中国、マレーシア、台湾の卒業生を集めて、現在の仕事内容を中心に交流会を実施。外国人をターゲットにした日本文化(漫画、アニメなど)のイベント企画や運用、動画コンテンツを配信している卒業生に、在校生×卒業生の交流会にて仕事の内容のスピーチを実施。

【議題3】

Webディレクションについて。

【意見】

Webディレクションにおいて「コミュニケーション力」がとても重要。それらを高める教育をさらに考えてみてはどうか。

【活用】

卒業生×在校生の交流会(2月10日)を実施。卒業生60名、在校生37名が参加。年度、職種、企業の名札を作り、在校生が内定している、または目指している職種ごとに卒業生とマッチング。卒業生より現場で必要とされる力について座談会を実施。

今後のWebデザイナーの果たす役割や領域を探るという目的で、学科横断プロジェクトとして「IoTプロジェクト」を昨年度発足。今年度は、都内病院施設に取材協力をしていただきながら、多忙な看護師をターゲットにした患者の食事の残食記録を解決するIoT製品とアプリを制作。12月に開催されたDevice2Cloudコンテストで優勝を獲得。

(別途、以下の資料を提出)

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

Web業界で活躍できるWebクリエイター育成のために、下記を踏まえた実習を企業と連携して行い、Web業界に必要なディレクションやWeb制作技術などの実践的能力を養うことを基本方針とする。

- ① クライアントの要望をヒヤリングするためのオリエンテーションから企画、モックアップ(外観デザインの試作)、最終の各段階で企業へのプレゼンテーションを実施し、コミュニケーション能力の向上につなげる。
- ② クライアントの要望に応じた企画立案ができるように、授業と実習を通してWeb制作会社で行われているマーケティング・調査分析の仕方について実践的な知識を習得する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ① Web制作企業から実案件(クライアントの要求)を元に課題が提示され、企画提案・Webサイト制作・プレゼンテーションまでのWebワークフローを通して実務能力を学ぶ。企画・モックアップ、実装、最終にて企業プレゼンテーションを行い、企業から指導を受けながらWebサイト制作を行う。
- ② コミュニティサイトを運営する企業から既存サイトを使った課題が提示され、ユーザビリティ評価、マーケティング観点より既存のサイトの問題点を洗い出し改善提案を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
進級制作	Web制作企業2社から実案件(クライアントの要求)を元に伝承文化のプロモーションサイトの課題が提示され、企画・モックアップ・実装までのWebワークフローを通して実務能力を学ぶ。各ステップごとに企業から指導を受けながらWebサイト制作を行う。	株式会社ベースメントファクトリー プロダクション コアフレーム株式会社
ユーザビリティ&アクセシビリティ	株式会社ウィルゲートが運営している暮らしをテーマにしてコミュニティサイトを課題にして、チームでユーザビリティ評価手法を用いて既存のサイトの問題点を洗い出し改善提案を行う。最終プレゼンでは、企業からフィードバックをもらい評価を受ける。	株式会社ウィルゲート

(別途、以下の資料を提出)

* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教育課程編成委員会での意見やWeb業界の動向等を踏まえて、現在教員に不足している知識、技術、技能及び、教授法や教育的資質に関する下記①～③等の研修を、教員研修規程に則って行う。これまでは、Web制作関連団体が行っている研修の受講が主であったが、将来はWeb制作会社や団体から講師を招いたものや教員がWeb制作企業内で制作業務を担当するなど、Webデザイン科独自の研修なども計画的に行う。

- ①今後も益々利用者のネット環境が多様化・複雑化しているなかで、ユーザーに最適なWebサイトを制作するのに必要な最新の知識、技術、技能に関する研修。
- ②多くのWeb制作会社が注目しているユーザーが体験を通して新しい価値を生み出す「ユーザエクスペリエンス」の必要性と、それらを向上するための知識、技術、技能に関する研修。
- ③変化する学生(気質)に対応し、学生の学習意欲を高めるような、キャリアサポートや体験学習(ファシリテーションスキル)等の教育的資質に関する研修。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「マーケティングのための企画立案力養成講座」(連携企業等:株式会社宣伝会議)

期間:2017年5月30日 対象:学科教員
内容:・アイデア・バイブル アイデアについて考える
・「そうきたか!」を生み出す企画プロセス
・企画を着地させる表現力

研修名「AdobeMax2017 Japan」(連携企業等:アドビシステムズ株式会社)

期間:2017年11月28日 対象:学科教員
内容:・Adobe XD 101:明日から完全につかいこなす基本操作から応用テクニックまで
・Dreamweaverでものにする最新CSSデザイン-Flexboxを使いこなしてらくらくレイアウト
・デザインに役立つ!世界的コンセプトアーティストのマル秘
・Web制作はここまで早くなる!コーディング不要のレスポンシブデザイン

研修名「ブランドコミュニケーション講座」(連携企業等:株式会社宣伝会議)

期間:2018年2月20日 対象:学科教員
内容:・ブランド戦略の基礎
・ブランドをコミュニケーション戦略に落とし込む
・今、求められるブランドコミュニケーションの戦略

研修名「コンセプト開発実践講座」(連携企業等:株式会社宣伝会議)

期間:2018年2月26日 対象:学科教員
内容:・コンセプトを言語化する未来をつくるビジョンのある言葉
・辿り着く景色を全員に見せるビジョンの発想法
・関わる人の自発的な行動を生む「見える言葉」づくりの3つのポイント

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「H29年度夏季研修会創造性開発講座<収束技法編>」(連携企業等:株式会社ビーコンラーニングサービス)

期間:2017年8月22日～23日 対象:全教員
内容:創造思考技法の実践による革新的思考を啓発し、新しいアイデア、考え方、アプローチの仕方を実践に結びつけていくために必要な実践思考能力とプレゼンテーションスキルを向上させる。これは、教員として必要とされるグループワークでのファシリテーション力を身につけることに繋がる。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ペルソナ、シナリオ、UI、UX」(連携企業等:アドビシステムズ株式会社)

期間:2018年11月 対象:学科教員
内容:Webサイト制作の上流工程で注目されている手法の習得。

研修名「マーケティング」(連携企業等:株式会社宣伝会議)

期間:2019年2月 対象:学科教員
内容:Webサイト制作の上流工程に必要な知識。マーケティング実践講座、インターネットマーケティング講座、コンテンツマーケティング等の習得

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「H30年度夏季研修会 サステイナブルセミナー」(連携企業等:株式会社ビーコンラーニングサービス)

期間:2018年8月30日～31日 対象:全教員

内容:全世界のテーマである「サステイナブル」について、教育分野が果たす役割について考える。これからの教員には、「サステイナブル」の観点が求められ、その基礎知識と指導力の向上を図る。

(別途、以下の資料を提出)

- * 研修等に係る諸規程
- * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校では、卒業生、保護者、高等学校教員、画像情報関係団体、地域住民、Web制作企業等、本校の関係者を評価委員として、学校関係者評価委員会(以下、評価委員会という。)を組織する。評価委員会では、本校の自己評価報告書にもとづき、学校の運営状況やWebデザイン科の教育状況、目標達成度、進路の状況、卒業生の産業界での活躍等、教育活動に関する自己評価結果を報告する。評価委員より、自己評価結果の評価を受け、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、Webデザイン科への理解促進や連携協力による今後の運営や教育の改善等を図ることを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像の周知、職業教育の特色、将来構想、学科教育目標
(2)学校運営	運営方針、事業計画、組織・意思決定機能、人事規程、教育活動の成果公開、情報システム化
(3)教育活動	教育目標・育成人材像、教育達成レベル、実践的なカリキュラム、業界関連科目目標、キャリア教育、授業評価、職業教育、教員確保・育成、成績・単位基準、資格指導体制
(4)学修成果	就職率、資格取得、ドロップアウト対策、卒業生・在校生の活躍、キャリア形成と教育改善
(5)学生支援	就職指導体制、学生相談体制、学費支援体制、学生生活・健康管理、課外活動支援、保護者会、卒業生支援、関連分野と業界関係
(6)教育環境	施設設備環境の維持・向上、学外実習・インターンシップ・海外研修体制、防災訓練
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、教育成果の公表、入学選考、学納金、資格・就職情報公開
(8)財務	中・長期財務計画、予算・決算・収支計画、定期的な会計監査、事業(財務)情報公開
(9)法令等の遵守	法令・設置基準の遵守、個人情報保護、自己点検・評価、自己評価・第三者評価の公開
(10)社会貢献・地域貢献	学校施設の教育資源の貢献、学生ボランティア活動支援
(11)国際交流	留学生の受け入れ戦略、留学生の在籍管理と手続き、留学生の学修・生活支援体制、学習成果の発表

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

- 一部の授業運営において、実習教室の開閉に関する改善を図ることが必要との意見を受け、下記の取組みを行った。
- ・指摘事項に対する実態調査を行い、迅速に対応して管理監督体制を強化すると共に適切な指導と改善を行った。
 - ・授業アンケートの質問項目を変更し、授業運営上の更なる問題点の把握に努め、新たな問題点についても改善に向けた対応を行った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
石本 則子	株式会社スタジオフェイク	2017/5/1～2019/4/30	企業
井沢 祐	株式会社スタジオフェイク	2017/5/1～2019/4/30	企業
内田 昌宏	株式会社 ラック	2017/5/1～2019/4/30	企業
乗浜 誠二	株式会社 ナレッジコンスタント	2017/5/1～2019/4/30	企業
舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン	2017/5/1～2019/4/30	企業
新 和也	オートデスク株式会社	2017/5/1～2019/4/30	企業
浅賀 央起	株式会社びえろ	2017/5/1～2019/4/30	企業
川崎 紀弘	株式会社コンセント	2017/5/1～2019/4/30	企業
佐々木 信彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	2017/5/1～2019/4/30	企業
渡辺 登	合同会社ワタナベ技研	2017/5/1～2019/4/30	企業
満岡 秀一	一般社団法人	2017/5/1～2019/4/30	業界団体
宮井 あゆみ	公益財団法人画像情報教育振興協会	2017/5/1～2019/4/30	業界団体
中台 浩正	東京商工会議所 新宿支部	2017/5/1～2019/4/30	業界団体
原 洋一	一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会	2017/5/1～2019/4/30	業界団体
米井 翔	一般社団法人 組込みシステム技術協会	2017/5/1～2019/4/30	業界団体
勝間田 清一	日本大学 生物資源科学部	2017/5/1～2019/4/30	大学
四篠 勇人	株式会社ウィザス	2018/5/1～2020/4/30	高等学校
松下 秀房	目白研心中学校・高等学校	2018/5/1～2020/4/30	高等学校
沼田 宏	株式会社インターカルト日本語学校	2017/5/1～2019/4/30	日本語学校
小澤 博太郎	百人町西町会	2017/5/1～2019/4/30	地域住民
谷 伸城	株式会社アプリケーション プロダクト	2017/5/1～2019/4/30	卒業生
中山 秀昭	日本電子専門学校同窓会	2017/5/1～2019/4/30	卒業生
藤本 香織		2017/5/1～2019/3/31	保護者
植村 美智子		2017/5/1～2019/3/31	保護者
清水 啓子		2017/5/1～2019/3/31	保護者
日比野 晴美		2017/5/1～2019/3/31	保護者
三浦 稚子		2017/5/1～2019/3/31	在校生
伊藤 史華		2017/5/1～2019/3/31	在校生
戸嶋 瑠奈		2017/5/1～2019/3/31	在校生
假野 紗希子		2017/5/1～2019/3/31	在校生
大久保 匠真		2018/5/1～2021/3/31	在校生
菊地 聖治		2018/5/1～2020/3/31	在校生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/stakeholder-assessment.html>

(別途、以下の資料を提出)

- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- * 自己評価結果公開資料
- * 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

理念・育成人材像といった教育的目標から施設設備・財務状況といった学校運営に至るまでの情報をホームページや入学案内書などの冊子に掲載するとともに、Webデザイン科の教育成果として、前期は「授業成果発表会」を、後期は、「進級・卒業作品発表会」に来場を促し、学科ブログで学科での取り組みを広く公開することによって、在校生・保護者、高等学校、卒業生が活躍する企業・業界、学校近隣の住民など、関係者の理解を深め連携及び協力の促進に資するために、積極的に情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	本校について、教育理念、校長名、沿革
(2) 各学科等の教育	学科紹介、カリキュラム、時間割
(3) 教職員	組織図、教職員人数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育の仕組み、キャリア教育、産学連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、エクステンションプログラム、施設
(6) 学生の生活支援	就職サポート、学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費サポート、納付金・時期、独自の奨学金制度
(8) 学校の財務	貸借対照表、資金・消費収支計算書
(9) 学校評価	自己点検評価、学校関係者評価、第三者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ、広報誌等の刊行物、その他(授業成果発表会、進級・卒業制作発表会、学科ニュース)

<http://www.jec.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程 Webデザイン科) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			就職活動リテラシー	ワークシートやグループワークを利用した体験型学習で、楽しみながら就職活動の準備を行う。 ① キャリア（職業人生）を理解して就職活動の動機を得る。 ② ワークショップ形式で自己分析を行い、就職活動で実際に使えるツール（文章・台本）に仕上げる。 ③ 就職活動に必要な各種情報を得る。	1前	30		○	△		○			○		
○			企画書制作&プレゼンテーション	目的に沿ったリサーチから発表までを通じ、企画書の作り方とコミュニケーション手段としてのプレゼンテーション手法を学ぶ。	1前	60		○	△		○			○		
○			Webデザイン基礎	Webサイトを作る上で必要なサイトの種類や特徴、サイト設計、情報整理、ページデザイン、画像と色彩、レイアウトなどの基本的なWebデザイン知識を学ぶ。	1前	30		○			○			○		
○			HTML&CSS実習	W3C規格に準拠したHTMLコーディングを理解し、Webサイトを制作する。 Web標準実装の際に抑えておくべきポイントやノウハウ、サイト作成ソフトウェア（Dreamweaver）の活用テクニックを習得する。 （使用アプリケーション：Atom, SublimeText, Dreamweaver）	1前	120					○	○			○	
○			色彩演習	ヴィジュアル表現における色の役割や色彩に関する基礎的な知識を身につけ、感情や状態を色で表す演習等を行う。色彩検定の取得を目指す。	1前	30		○				○			○	
○			グラフィック実習	ペイント系ソフトウェア（Photoshop）の基本操作を習得し、フォトタッチやWeb画像素材の制作、Webページデザインの制作を行う。また、ドロー系ソフトウェア（illustrator）の基本操作を習得し、ベクトル画像の制作について習得する。 （使用アプリケーション：Photoshop, Illustrator）	1通	90					○	○			○	

○		JavaScript実習	ブラウザ側で動作するプログラミング言語であるJavaScriptを用いてプログラミングの基礎を学び、ページを動的に表現する演習を行う。 JavaScriptを使ったWebページにあるふるまい（動き）の作成方法やJavaScriptライブラリーの活用方法について学ぶ。	1通	90					○	○		○		
○		イラストレーション	イラストを描く上での基礎的な画材や紙の扱いを学習し作品を制作する。さらに平面や立体など既成概念にとらわれない様々な技法を学び、オリジナリティーあふれる作品の制作を目指す。	1通	120					○	○			○	
○		Webデザイン発想法 I	Webデザイナーに必要な発想力を身につけるため、平面構成や動きの構成を学び、かたちの発想を導く実習を行う。自分でアイデアを生み出す力を身につける。	1後	60					○	○			○	
○		サイト設計	Webサイト構築のワークフローと、Webサイトを制作する過程でつくられる各種ドキュメントの作り方について演習を通して学ぶ。	1後	30					○				○	
○		Webアプリケーション制作 I	HTML&CSS&JavaScriptを使ったWebアプリケーションの作り方を学ぶ。HTML5ハイブリッドアプリ開発プラットフォーム「Monaca」を使用。	1後	30						○	○		○	
○		情報デザイン I	人間中心デザインの考え方に即したWebデザイン設計をワークショップ形式で学ぶ。人間中心設計の概念やプロセスを学び、人間中心デザインに関するさまざまな手法の理解と実践方法の修得を目指す。発想からコンセプトデザイン手法、コンセプトやユーザー評価の方法まで、体系的に、演習を通して実践的に学ぶ。	1後	90				○		△	○		○	
○		進級制作	連携しているWeb制作会社から実案件（クライアントの要求）を元に課題が提示され、オリエンテーションから企画、制作、プレゼンテーションまでの一連の流れを学習する。Webワークフローを通して、実務能力・技術力・表現力を身につける。	1後	120					△		○	○		○
○		Webデザイン発想法 II	Webデザインにおける快適なユーザーインターフェイスを実現するための発想力を身につける。基本的な動きや感覚などを表す言語を分析して再構築する演習を行なう。	2前	60					○				○	
○		Webライティング技法	Web媒体を活用した伝わる文章を理解しライティングスキルの必要性を理解する。閲覧者にとって読みやすい文章、わかりやすい文章の書き方について演習を通して学び、人に伝わる文章を学習する。	2前	30					○				○	

○		Webアプリケーション制作Ⅱ	Webアプリの企画から制作をチームで行う。ソースコードなどをチームで履歴を共有し制作するためにGitサービスを利用する。 HTML5ハイブリッドアプリ開発プラットフォーム「Monaca」を使用してWebアプリを制作。	2前	90				○	○			○
○		情報デザインⅡ	①情報デザイン試験の取得を目指す。 ②インタフェースおよびインタラクションのデザイン手法について学ぶ。	2前	60		○	△	○			○	
○		ユーザビリティ&アクセシビリティ	企業課題をチームで問題解決を行う。 ① ユーザビリティ評価手法を用いて既存のサイトの問題点を洗い出し改善提案を行う。 ② 視覚障害者支援団体の協力を受けて、Webアクセシビリティの現状と問題点の理解を深める。 ③ UXを考慮したサービスデザインの提案	2前	120		△	○	○			○	○
○		サーバーサイドプログラミングⅠ	サーバーサイドプログラムであるPHPプログラムをPCで動かすための環境を整え、掲示板等を作りながらPHPプログラミングについて学ぶ。同時にデータベース（MySQL）を使った実践的な課題を行う。 (Apatch, PHP, MySQL)	2前	60				○	○		○	
○		卒業制作	2年間の集大成として、Webを商用で必要としている企業や店舗、学校などをクライアントとし、学生個々の制作ジャンル（Webサイト、スマートフォンアプリ、Webシステム、ゲーム等）に沿った作品を制作する。クライアントの要求に応じて、事前調査、コンセプトマーケティング、企画書制作、ユーザビリティ評価、確認、納品、最終プレゼンなど、実践的なWebクリエイターとして、一連の制作工程を踏まえた制作を行う。	2後	150		△	○	○			○	
○		写真撮影・映像演出技法	カメラの使い方、写真撮影に関する知識を学び、広報誌やWebサイトに使用される写真を撮影するための実践的なテクニックを学ぶ。	2後	60				○			○	○
○		関連法規	Webデザイナーに必要な法律知識を学ぶ。著作権をはじめとする知的所有権、個人情報法、刑法の業務妨害などについて、報道等で取り上げられた裁判の事例を交えて学ぶ。	2後	30				○			○	○
○		Webマーケティング	Webマーケティングを取り巻く外部環境・市場動向や、ソーシャルメディア連携などによるWebマーケティング、企業におけるソーシャルメディアの活用方法などWebサイトの戦略的なビジネス活用について学ぶ。	2後	30				○			○	○

○		Webディレクション	スケジュール管理、リソース管理、コスト管理、運用管理などを含めて成果を上げるディレクションの仕方について学ぶ。	2後	30		○		○					
○		広告デザイン	印刷メディアの広告表現デザインや、CMなどの広告映像の表現、Webを使った広告表現など実際の広告具体例を見ながら広告の表現技術を学ぶ。	2後	30		○		○					
○		サーバーサイドプログラミングⅡ	CMSツールWordPressをサーバーにインストールする方法から、サイト構築のやり方を実践的に学ぶ。また、CakePHP、Laravelを使って簡単なオブジェクト指向スクリプト言語を習得する。	2後	60				○	○		○		
合計				26科目			1710単位時間							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件 試験、提出課題、平常点を加味した成績評価において、全ての科目で「可」以上 (留意事項)	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	15週	

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。